

荒川下流分散避難検討
ワーキンググループ
検討方針(案)

足立区における「分散避難」の取組

三密対策 まずは分散避難

避難所には多くの方が来ます。三密を避けるため、自宅の浸水リスクを把握し、避難所以外へ「分散避難」ができるか事前に検討をお願いします。
問い合わせ先 災害対策課 災害対策係 ☎3880-5836

STEP 1 足立区洪水ハザードマップで、自宅の浸水リスクを確認



河川(荒川、利根川、江戸川、中川、綾瀬川、芝川・新芝川)ごとに水害を想定。避難方法を考えるために、まずは自宅や周辺の浸水する危険性を把握しましょう。お持ちでない方には企画調整課、区民事務所で配布しています。くわしくはお問い合わせください。問い合わせ先 企画調整課 企画調整担当 ☎3880-5349



▲区のホームページでも閲覧可

避難方法の判断ポイント!

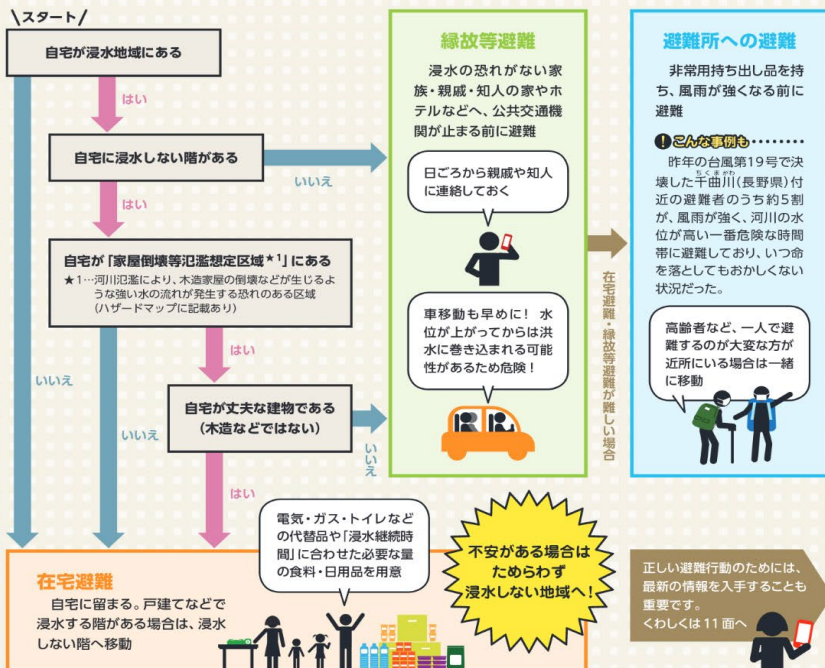
- ✓ 浸水深
- ✓ 浸水継続時間

河川ごとに確認して、ハザードマップの「避難行動メモ」に記入しておこう!

例えば、荒川氾濫時、千住地域の最大浸水深は、5m以上(3・4階まで浸水)の所もあれば、3〜5m(2階まで浸水)の所も、自宅の場所や住んでいる階などで、避難方法を考えることが重要です。

STEP 2 自宅の浸水リスクを踏まえ、避難方法を検討

自宅の「浸水深」「浸水継続時間」を把握したら、下記のフローチャートを参考に避難方法を考えましょう。



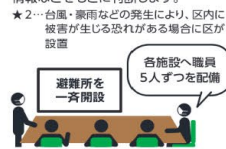
いざ避難 避難所でのルールを守る

必ずルールを守り、避難者同士で助け合い円滑な運営にご協力ください。
問い合わせ先 災害対策課 災害対策係 ☎3880-5836

開設・受け付け

災害対策本部※2が避難所開設を決定し、区職員を配備

荒川氾濫が予想される場合、避難所(区立小・中学校など)を一斉開設します。そのほかの河川の場合は、気象情報などをもとに判断します。
★2…台風・豪雨などの発生により、区内に被害が生じる恐れがある場合に区が設置



受け付けで避難者カードに住所・氏名などを記入

そのほか、下記のことを行います。
・検温の実施 **感染症対策**
・運営ボランティアを募集 など



ペット動物との同行避難

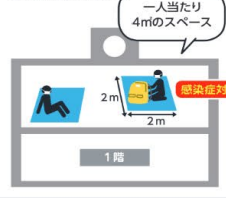
受け付け時にペット登録カードを記入し、ペット動物用居室へ。飼い主とは原則居室が異なります。ケージ、リード、エサ、シートなどは必ず持参してください。



避難中

避難所の居室は浸水しない最上階から利用

浸水する階にある体育館は、受け付けなどで一時的に使用する場合を除き、使用しません。



37.5℃以上の方は居室を分ける

受け付け時に検温し、37.5℃以上の熱がある方の居室分けを行います。



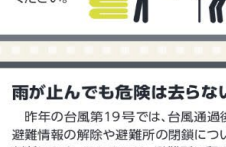
避難当日の食料・水の提供は行いません

区の備蓄品は河川が氾濫し、避難の長期化が見込まれる場合に使用します。2食分の食料(火やお湯を使わないもの※3)や水、タオルなどは必ずご持参ください。
※3…幼児用ミルクなどを除く



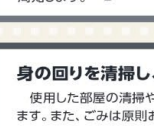
物資受け取りは避難者自身で

毛布などの物資は、避難者が受け取りに来てください。



最新の情報を確認

校内放送や掲示板などで災害対策本部からの情報を周知します。



閉鎖

雨が止んでも危険は去らない

昨年の台風第19号では、台風通過後に河川の水位が上昇。避難情報の解除や避難所の閉鎖については、災害対策本部が判断します。それまでは、避難所に留まってください。



身の回りを清掃し、ごみは各自で持ち帰り

使用した部屋の清掃や毛布などの返却にご協力をお願いします。また、ごみは原則お持ち帰りください。



足立区における「分散避難」の取組

避難所 への避難

⇒感染症等を考
慮すると、さら
に受入れ可能人
数が減少

3密を回避
するために

分散避難

在宅
避難

縁故者
避難

避難所
への
避難

※「浸水深」や「浸水時間」等の浸水リスクを確認

現状の避難の課題と対策

避難所への避難



- ・感染症等を考慮すると、さらに受入可能人数が減少

「広域避難」

他の市町村等へ行政界
を越えた避難



- ・避難者数が多く避難先の確保が困難
- ・計画運休等の実施により、早期の広域避難がより困難化

これらの課題に対応するため

多様な避難行動

在宅避難

縁故等避難

家族・親戚・知人などの家

ホテルなどへの避難

避難所への避難

等

多様な避難対策

指定避難場所以外で民間施設
も含めて避難先を確保

高台まちづくりで
新たな避難場所を確保

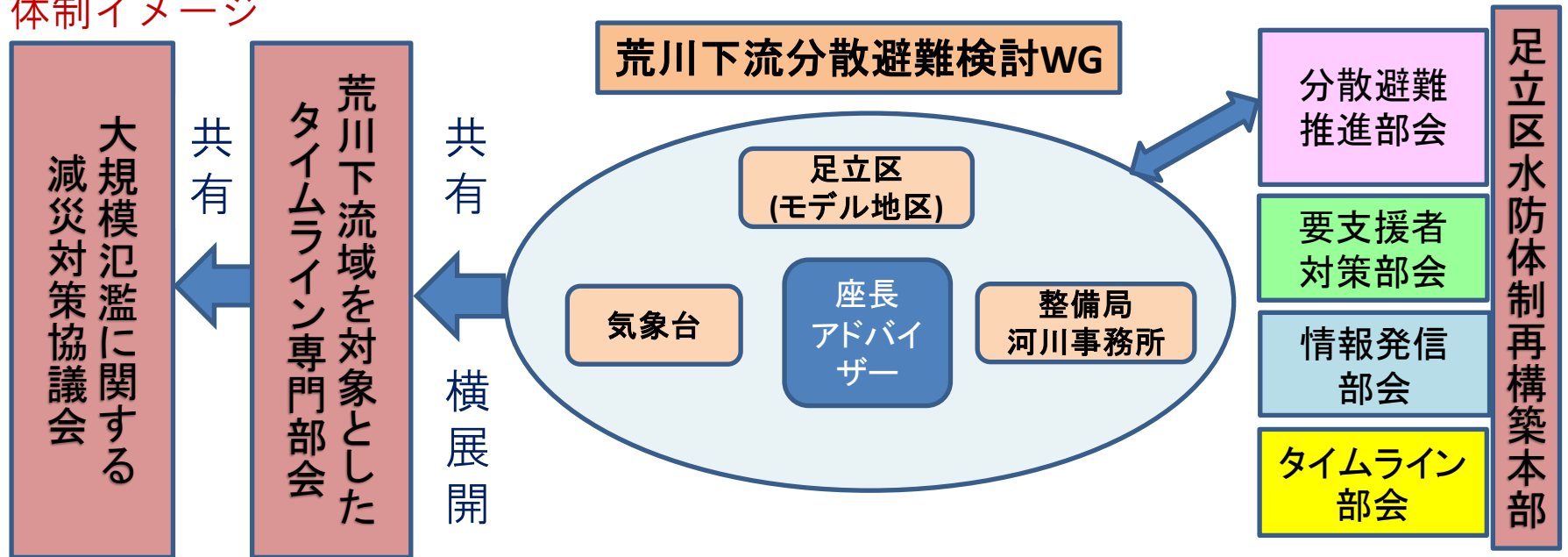
等

WGのゴール 分散避難の実効性確保

WGのアウトプット

足立区をモデル地区として分散避難のあり方と留意点を取りまとめ
荒川下流タイムライン関係機関（区市）への横断的な展開
⇒感染症を考慮した分散避難の留意点
関連施策を実施した場合の効果の検討

体制イメージ



検討等実施項目（案）

1. 地域毎の浸水深、湛水時間の算出
2. 感染症を考慮した避難所の受け入れ可能人数の算出
3. 避難をするにあたって、住民が個別に考慮が必要と考えている事項を把握（移動手段・距離、家族、親戚・知人 等想定）
4. 前記の考慮が必要な事項を反映した分散避難検討フローを作成し、避難形態毎の避難人口を算出

分散避難の実効性を高める(支援する)施策の検討

- ・ 公的、民間施設との避難先確保に関する協定
- ・ ホテル、旅館等との宿泊協定 ・ 広報を通じた意識啓発 ・ 情報発信強化 等

その他に分散避難の実効性を高める事が期待される事項

- ・ 高台まちづくりで新たな避難場所を確保
- ・ 湛水時間短縮を図るための排水計画の検討 等

高台まちづくりのイメージ

建築物等（建物群）による高台まちづくり

〔平常時〕 賑わいのある駅前空間
 〔浸水時〕 避難スペース等を有する建築物と
 ペデストリアンデッキ等をつないだ建物群により
 命の安全・最低限の避難生活水準を確保



高台公園を中心とした高台まちづくり

〔平常時〕 河川沿いの高台公園
 〔浸水時〕 緊急的な避難場所や救出救助等の
 活動拠点として機能。道路や建築物等を通じ
 て浸水区域外への移動も可能



高規格堤防の上面を活用した高台まちづくり

〔平常時〕 良好な都市空間・住環境を形成
 〔浸水時〕 緊急的な避難場所や救出救助等の
 活動拠点として機能。浸水しない連続盛土等
 を通じて浸水区域外への移動も可能

